
心は今もあの人の元に。

雲丹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心は今もあの人の元に。

【コード】

N3335D

【作者名】

雲丹

【あらすじ】

気高く生きる女王様の、ちょっとした昔話。

(前書き)

この小説は「視点の変わる小説」に参加しています。

静かに時が流れている。

ここは、私の一番好きな場所。

この王宮も変わってしまったけれども、この部屋はあの頃と全く変わらない。

あの人は、今どこに　　？

一人で考えている。いつも、いつも。

でも私は女王。

いつも気高く、強くないなければならないの。

あの人が戻るまで。

でも休みだって欲しい。

そんなときはこの部屋でただ座ってる。

そう、あの人と共に過ごした、1輪の花が咲くこの部屋で。

こうしていると、思い出がつい最近のことのように鮮明に思い出される。

彼と出会ったのは、雨が降り、雷が鳴る嵐の日だった。旅人だった彼は、宿を求めてこの城を訪ねたのだった。

第一印象は、ただただ『怖い』だった。この城ですつと過ごしてきた私にとって、外の世界の人は得体の知れないモノだったから。

たまに街に出ても、人とは話さず、ただうつ向いて歩いていくだけ。

それは『怖い』という思いからだろう。

でも、この人は違った。

なぜか、話していても恐怖を感じず、むしろ楽しさすら感じていた。

話は、沢山した。

いろんな話をしたが、彼はなぜかはわからないが花の事を良く知っていて、花の話が好きだった。

花の種類もいろいろ教えてもらったし、花言葉も教えてもらった。

そして彼は、一本、とても大事そうな花を見せてくれた。

花の名は、『スターチス』。

どんな花言葉かはわからなかったけれども、彼のその嬉しそうな顔

を見て、良い意味だと確信した。

その花は、大事な人からもらったらしい。

外を知らない私には、大事な人は親しか知らなかった。というか、知り合いがいなかったのだ。

だからきつと、親にもらったものなんだろうと思っていた。いや、そう思わざるを得なかったのだ。

そんな話もして、他にも沢山話をして。

時間が経つのがとてつもなく速く感じられた。

次の日、朝になると、そこに昨日あった大きな影はなく、ただ私一人が横になっているだけだった。

最初は、顔でも洗っているんだろうと思っていた。

でも、時間が経つに連れてだんだんと焦りがつのる。

私は、全速力で父の元に向かった。そして、息を切らしながら彼のことを聞いた。

思ったとおりだった。

彼は旅人。

同じ場所に留まることはない。

この城で1晩過ごしたのもいつもどおりに寝泊まりする場所を探して眠っただけ。

彼が私に会うためにこの城に来たなんて勝手に想像していた私は、自分で自分が恥ずかしくなった……。

でも、そんな気分も、その後父から渡されたものによって打ち消された。

それは

一輪の、花。

彼が私にと置いていったものらしい。

綺麗な花だった。

口では表せないほどに。

その時、ふとこの花の花言葉が気になった。

でも、この花はこの辺にある花でもなくて、どんな花かさえわからなかった。

そして私が諦めようとしたとき、ふと彼の持っていた花を思い出した。

スターチス。

どんな花言葉かは全くわからなかったが、とにかく調べてみたのだ。

その花言葉を知ったとき、私はよくわからない感情に襲われた。

花言葉は、『変わらぬ誓い』。

どんな意味かはわからなかったが、とても重く、重く感じたのだ…。

そして、それから少し経って、彼からもらった花が紫蘭という花だと知った。

その時に、花言葉も同時に知ったのだ。

『互いに忘れない』という。

それを知って私は、この女王として、強く、気高くいることを決意した。いつか彼が来ることを信じて。

「……………様！ 女王様！」

あら。少し昔話に浸り過ぎたわね。

「何よ!?!」

全く……いつもうるさいわね……。

「えっと……旅人が、一晩泊めてくれと」

旅人……ね。

「いいわよ。通しなさい」

そして私は、その入ってきた者の姿に驚きを隠せなかった。

その影はあの時よりもずっと大きくなっていて、私の体を覆い隠した。

私は女王……。

強く、気高くいないといけない。

なのに……。

涙が、止まらない……。

いや、これはいいの。

強く、気高くいるのは彼がここにまた来るまで。

これからは、一人の女として、彼を愛し続けるから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3335d/>

心は今もあの人の上に。

2010年10月9日05時29分発行